



夕刊

中日新聞本社  
名古屋市中区三の丸一丁目6番1号  
電話 名古屋 052(201)8811  
〒460-8511 郵便振替 00890-0-10  
© 中日新聞本社 1998

# 北アに夏山診療所次々

名古屋市立大医学部(名古屋市瑞穂区)の医師らが八月二日、北アルプス・蝶ヶ岳(長野県堀金村)に、夏休みの登山者のためのボランティア診療所を開く。大学あげての取り組みで、診療所に衛星電話などを設置。血圧などのデータを名市大に送り、専門医の助言を求めるなど、新しい遠隔医療のあり方も探ることにしている。中高年の登山ブームを反映して、登山中に病気になる人も増えており北アルプスの山々には信州大(常念岳)や岐阜大(穂高岳)などが同様の診療所を開設、登山者の健康管理に努めている。

## 衛星電話を設置 遠隔医療も探る

名市大

診療所の開設は、蝶ヶ岳ヒュッテの関係者が昨年、名市大病院に入院した際、設けられる。ことは八月十九日までの間、医師、看護婦、学生らが交代で滞在。病気のやがてした登山者の治療を行う。

診療所は山頂に近い二六七〇メートルにあるヒュッテ内のデータ、治療の様子を映した映像を名市大に送り、医師らが双方方向でやりとりする手法も試す。二十四時間態勢で病院に待機する専門医のアドバイスを得られ、山でも最高水準の診療が可能だ。診療所では、衛星電話やインターネットなどの通信機器を置き、診療所で測定し、開設準備に当たってきた



蝶ヶ岳のボランティア診療所に持ち込む衛星電話を準備する医師ら＝名古屋市瑞穂区の名古屋市立大医学部で

太田伸生教授(医動物学)「ボランティアの精神を身につけ、社会への貢献とともることができれば」と話し、医療従事者としてボランティアに、同岳へ七月から十一月のシーズンに約七千人の登山者が訪れる。高山病にかか



## 急病救い 安心登山

つたりけがをするケースが七十人前後あり、平成二年には体調を崩して亡くなった男性もいた。ヒュッテも

「専門医に適切な処置をしていただければ、安心できます」と期待している。

登山者の急病やけがに対 応するための大学による山岳診療所は、信州、岐阜大、のほか、岡山大(三俣蓮華岳)、東京慈恵医大(槍ヶ岳)、順天堂大(燕岳)、学が開設している。

信州大学が常念岳(二、八五七メートル)に夏山診療所を開設したのは一九八六年。七月から八月まで医師や看護婦ら三人が常駐し、毎年平均百十人を診察してきた。この夏からは新たに人工衛星を使ったテレビ会議システムを導入。長野県松本市の同大医学部と結び、専門外の症状にも対応できるように、態勢を充実させている。